

IV-2 東北

訪日外国人宿泊者数185万人泊 1年前倒しで目標達成
東北6県の港湾へのクルーズ船寄港回数、
仙台空港の旅客数が過去最高に
ラグビーワールドカップ2019の開催
「令和元年東日本台風」による被害

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

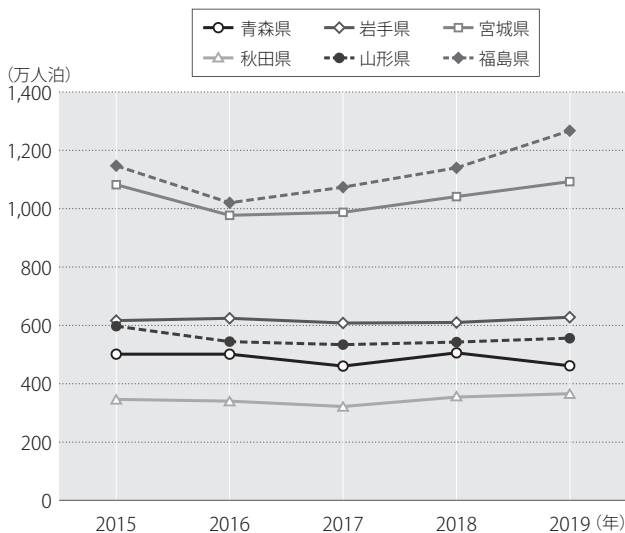
観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2019年1月～12月の東北地方の延べ宿泊者数は4,370万人泊となり、前年比4.3%増加となった(図IV-2-1)。

県別に見ると、青森県が9.0%減、岩手県が2.9%増、宮城県が5.1%増、秋田県が4.2%増、山形県が2.6%増、福島県が11.0%増となった。

外国人延べ宿泊者数は、185.2万人泊となり過去最高を更新した(図IV-2-2)。前年比25.7%の大幅な伸び率は地方ブロック別では2番目の高さとなった。

県別では青森県が2.1%増、岩手県が32.8%増、宮城県が40.0%増、秋田県が12.9%増、山形県が43.2%増、福島県が21.7%増となった。また、国別では台湾、中国、香港、タイ、アメリカの順に多く、伸び率としてはタイ、シンガポール、イギリスの順に高くなった。

図IV-2-1 延べ宿泊者数の推移(東北)

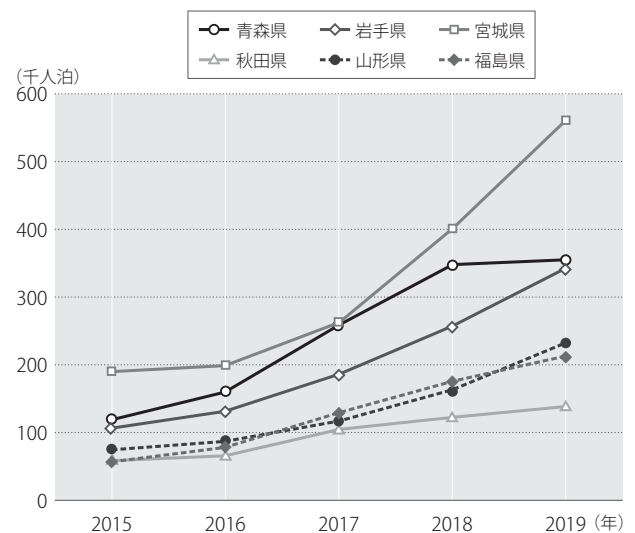


県	2015	2016	2017	2018	2019
青森県	501	501	462	506	461
岩手県	616	624	608	610	628
宮城県	1,082	977	998	1,041	1,093
秋田県	346	340	335	351	365
山形県	597	544	524	543	557
福島県	1,147	1,020	1,086	1,140	1,266

単位：万人泊

資料：観光庁「令和元年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-2-2 外国人延べ宿泊者数の推移(東北)



県	2015	2016	2017	2018	2019
青森県	119	160	260	349	357
岩手県	106	132	188	259	344
宮城県	191	199	264	402	563
秋田県	60	67	105	123	139
山形県	76	88	118	163	234
福島県	56	79	130	176	215

単位：千人泊

資料：観光庁「令和元年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

表IV-2-1 東北夏まつりの来場者数

祭事名	開催地	来場者数								
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
青森ねぶた祭	青森県青森市	266万人	282万人	285万人	259万人	269万人	276万人	282万人	280万人	285万人
盛岡さんさ踊り	岩手県盛岡市	136万人	122万人	130万人	137万人	139万人	126万人	134万人	133万人	149万人
仙台七夕まつり	宮城県仙台市	203万人	200万人	206万人	204万人	218万人	228万人	179万人	203万人	225万人
秋田竿燈まつり	秋田県秋田市	130万人	139万人	141万人	126万人	140万人	132万人	131万人	130万人	131万人
山形花笠まつり	山形県山形市	91万人	100万人	90万人	63万人	98万人	100万人	99万人	97万人	98万人
福島わらじまつり	福島県福島市	23万人	25万人	24万人	25万人	26万人	26万人	28万人	29万人	30万人

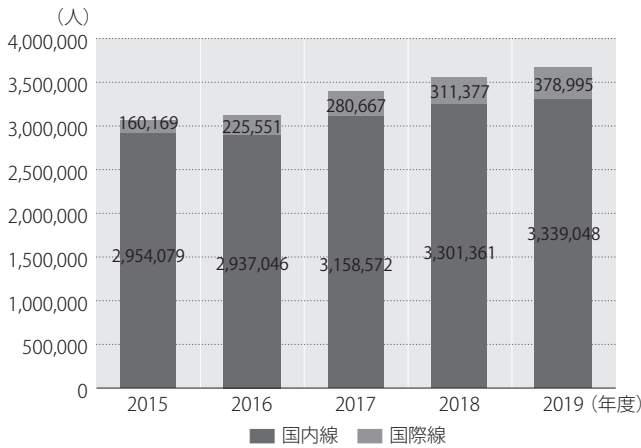
資料：各種資料をもとに（公財）日本交通公社作成

表IV-2-2 東北六魂祭、東北絆まつりの開催概要

	東北六魂祭					東北絆まつり				
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
開催地	宮城県 仙台市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	山形県 山形市	秋田県 秋田市	青森県 青森市	宮城県 仙台市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	山形県山形市で 5月30日(土)～ 31日(日)に開 催予定だったが 2021年度に延期
開催日程	7月16日(土) 17日(日)	5月26日(土) 27日(日)	6月1日(土) 2日(日)	5月24日(土) 25日(日)	5月30日(土) 31日(日)	6月25日(土) 26日(日)	6月10日(土) 11日(日)	6月2日(土) 3日(日)	6月1日(土) 2日(日)	
来場者数	約37万人	約24万人	約25万人	約26万人	約26万人	約27万人	約45万人	約30万人	約31万人	
経済効果	約103億円	約22億円	約37億円	約25億円	約31億円	約29億円	約44億円	データ無し	約42億円	

資料：各種資料をもとに（公財）日本交通公社作成

図IV-2-3 仙台空港の旅客数の推移



(2) 観光地の主要な動き

① 地方・都道府県レベル

● 東北の夏まつりの動向

2019年の東北各県の代表的な夏まつり（6件）は8月1日～8日までの間に、それぞれ2～6日間の会期で開催された。来場者数は計918万人となり東日本大震災後最高となった。全てのまつりの来訪者数が前年と比べて増加したが、その要因としては天候に恵まれたこと、高速道路の開通、「来訪神：仮面・仮装の神々」のユネスコ無形文化遺産への登録（2018年11月）による知名度の上昇などが挙げられている。ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会のパレード等もあわせて行った「盛岡さんさ踊り」や、観光バスの利用が多かった「仙台七夕まつり」は特に高い伸び率となった。

運営側の取り組みとしては、「写真映え」を意識したコンテンツの強化や大型クルーズ船の乗客向けの臨時列車増便、祭りの情報を多言語で閲覧できるスマホアプリの導入、スマホアプリを使用したタクシー配車サービスの実施といった受け入れ体制の整備を行った。

また、東北絆まつりは2019年6月1日・2日の2日間にわたって福島市で開催され、約31万人が来場した。なお、2020年5月30日(土)・31日(日)の2日間の開催を予定していた「東北絆

まつり2020山形」は新型コロナウイルスの影響を鑑み1年延期とし、2021年度に改めて山形市で開催予定であることが発表された。

● 「令和元年東日本台風」の被害と復興支援

台風19号は2019年10月12日～13日にかけて東北地方を縦断し、特に宮城県や福島県、岩手県などを中心に大規模な河川の氾濫や土砂災害をもたらした。政府は激甚災害に指定するとともに、9月に発生した台風15号もあわせた影響により落ち込んだ観光需要の回復支援のため、被災した14都県への旅行代金を1人1泊につき最大5,000円を割引する「ふっこう割」を実施した。

77カ所の被害が発生した三陸鉄道では義援金窓口、Yahoo!ネット基金などを開設し、復旧工事を行ったほか、2020年3月には釜石-陸中山田間、普代-久慈間の復旧工事が完了し、全線再開となった。

特に被害の大きかった宮城県丸森町では計18箇所が決壊したことにより深刻な浸水被害等が発生し、被害総額は約422億1千万円にのぼった。同町では2019年12月に「丸森町復旧・復興基本方針」を策定し、2020年度からの5年間における復旧・復興に向けた基本方針を示した。災害に強いまちを目指すとともに、活気あふれる産業・なりわいの再建の1つとして国内外からの観光客の誘致を図ることも挙げている。

● 北海道・北東北の縄文遺跡群（北海道、青森県、秋田県、岩手県の17史跡）、世界遺産への推薦決定

北海道、青森県、秋田県、岩手県の17史跡で構成される北海道・北東北の縄文遺跡群は、2019年12月20日の閣議において、世界文化遺産への登録に向けた推薦書をユネスコに提出することが了解され、2020年1月に推薦書が提出された。

青森県八戸市では、「八戸市景観計画」を改定し、「景観拠点」として機能ごとに3つのエリア（都市景観拠点・観光交流景観拠点・歴史文化景観拠点）を追加した他、縄文遺

跡群の一部である史跡・是川石器時代遺跡を核とした是川景観重点地区の景観重点地区としての指定などを行った。

秋田内陸縦貫鉄道では、2020年3月に伊勢堂岱遺跡の最寄り駅である小ヶ田駅（北秋田市）を縄文小ヶ田駅に改称した。

●みちのく潮風トレイル全線開通

環境省が策定した「グリーン復興プロジェクト」に基づき、歩いて旅をする「ロングトレイル」の文化を日本に定着させることを目的とした「みちのく潮風トレイル」は、青森県八戸市から福島県相馬市まで約1,000kmの全線が開通。2019年4月19日には情報発信の拠点施設として「みちのく潮風トレイル名取トレイルセンター」（宮城県名取市）がオープンし、6月9日には全線開通記念式典・シンポジウムを開催した。トレイルの沿線では名取トレイルセンター以外に5つのサテライト施設（種差海岸インフォメーションセンター、北山崎ビジターセンター、浄土ヶ浜ビジターセンター、碓石海岸インフォメーションセンター、南三陸・海のビジターセンター）でトレイルマップの配布や情報提供などを行う。

●「第2次おもてなし山形県観光計画～beyond2020～」の策定

山形県では2024年度を目標年度とする「第2次おもてなし山形県観光計画～beyond2020～」を20年4月に策定した。観光消費額2,600億円を掲げ、「山形ならではの」特性・資源を活用し、SDGsの視点から条例に基づく基本的施策を4本の柱として体系化し、「ICT等を活用したインバウンド拡大の加速化（デジタルマーケティングの展開）」をはじめとしたリーディングプロジェクトを展開する。

●台湾、タイ向けの旅行者の誘客プロモーション、商品開発

2019年度は国やJNTO、各県、東北観光推進機構、民間事業者などが連携し、インバウンドのうち高い割合を占める台湾や、仙台空港への定期就航を再開したタイなどに向けたプロモーションに力を入れた。

2019年10月には「Lonely Planet」が発表する「Best in Travel 2020」において、2020年に訪れるべき世界の10地域の第3位に「東北地方」が選出された他、2019年11月にはナショナルジオグラフィック協会が発行する「National Geographic」において、2020年に訪れるべき25の旅先「Best Trips for 2020」の冒険部門で「東北」が選出されるなど、海外からも注目されている。

東北観光推進機構、JNTO、日本観光振興協会東北支部及び東北運輸局は、今年で6回目となる「日本東北遊楽日2019」を11月に台湾で開催し、現地企業とのタイアップによる来場者への発信を行った。さらに現地旅行会社向けに東北観光セミナーや商談会を実施し、東北への旅行商品造成及び販売を促進する「東北プロモーション in 台湾2019」を開催した。

2019年8月24日～25日には、JNTOや東北観光推進機構が連携し、一般消費者向けのPRイベント「日本東北観光フェア」

をバンコクで開催したほか、東北6県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）と新潟県の知事・副知事をはじめ、同機構、仙台市や東北の主な経済団体・観光関係団体の代表などがバンコクを訪問しトップセールスを行った。

さらに、令和元年度「新しい東北」交流拡大モデル事業の一環で行われた「タイを拠点とした東南アジア富裕層の誘客拡大と受け入れ基盤の強化」では、青森・秋田・岩手・山形・福島の5つのDMOが連携し、富裕層を対象としたコンテンツ開発やファムトリップ等を実施した。

●東北周遊促進レンタカーキャンペーン「FUN FIND 東北キャンペーン」の実施

また、トヨタ自動車とJR東日本は、東北地方に点在する観光資源への誘客と二次交通の利便性向上を目的に東北周遊促進レンタカーキャンペーン「FUN FIND 東北キャンペーン」（2019年5月～9月）を実施した。列車の切符とレンタカーのセット商品や対象車種レンタカーの割引に加え、東北観光周遊に便利な観光情報やNEXCO東日本が実施する高速道路のETC周遊割引「ドラ割」などの情報をキャンペーンサイト（英語、中国語、韓国語、タイ語）で発信。その他、台湾、香港、韓国、タイのインフルエンサーを誘致し、SNSでの発信を行った他、現地旅行会社などと連携してレンタカーの告知や旅行商品造成などを行った。6月にはニッポンレンタカーも参画した他、東北のレンタカー会社が参画したことで充実した情報提供やシームレスな取り組みが可能となった。

②広域・市区町村レベル

●ラグビーワールドカップ2019の開催

2019年9月20日（金）～11月2日（土）にかけて開催されたラグビーワールドカップ2019では、公認チームキャンプ地として選ばれた岩手県釜石市・宮古市・盛岡市・北上市、山形県山形市・天童市、福島県において各国選手の受け入れが行われた。

開催都市に選ばれた釜石市では、鶴住居小学校・釜石東中学校跡地に新たに建設された釜石鶴住居復興スタジアム（2018年竣工）において1試合（9月25日 フィジー対ウルグアイ）が開催された（全2試合の予定が台風により1試合は中止）。同市では2016年10月にはAirbnbと観光促進に関する覚書を締結した他、2017年3月に「釜石市観光振興ビジョン」を策定。大会開催に向け、インバウンドの受け入れ態勢整備を強化し、外国人おもてなし研修会の開催、多言語対応の充実、パーク&ライド駐車場やバス乗降場等の確保、バスや鉄道の増便・増結、Wi-Fi環境の整備、開催期間中の県内旅行商品造成促進などを行った。

また、東日本大震災慰霊施設「釜石祈りのパーク」、防災学習施設「いのちをつなぐ未来館」、観光交流拠点施設「鶴の郷交流館」などで構成される「うのすまい・トモス」（19年3月）や、飲食店舗にキッチンスタジオ、イベントスペースを併設した「釜石魚河岸にぎわい館『魚河岸テラス』」（19年4月）をオープンした。

●「復興五輪」に向けた取り組みとイベントの開催

東京オリンピック・パラリンピックは、震災からの復興状況を世界に発信するとともに、被災地と連携した取り組みを行うことでさらなる復興を後押しする「復興五輪」の考え方を示している。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催は新型コロナウイルスの影響で延期が決定したものの、2020年3月には航空自衛隊松島基地でオリンピック聖火の到着式が開催された。

また、世界からの復興支援に対する感謝や復興の状況、観光地としての東北の魅力を発信するため、高輪ゲートウェイ駅前特設会場をメインとした「東北・新潟の情報発信拠点事業『東北ハウス』」の準備を進め、2019年9月には東京・丸の内、盛岡、釜石で「東北ハウス・イベント2019」を実施した。

また、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図るホストタウンが創設され、青森県5市町村、岩手県8市町、宮城県7市町、秋田県8市町村、山形県14市町、福島県9市町村においてスポーツ立国、グローバル化、観光振興、地域活性化を意識した交流事業が行われている。

●東北SDGs未来都市サミット

内閣府のSDGs未来都市の選定を受けた宮城県東松島市、秋田県仙北市、山形県飯豊町により2018年6月に発足した「東北SDGs未来都市サミット」は、2019年度に新たに加わった岩手県陸前高田市、福島県郡山市を加え、「東北SDGs未来都市サミットシンポジウムin仙北市」を開催した。

サミットでは、SDGsの達成や持続可能な地域づくりに取り組む「東北SDGs未来都市サミット宣言」と、近年の異常気象をふまえ、地球温暖化防止に資する取り組みを定める「気候非常事態宣言」が採択された。

●高速道路の延伸・開通

2020年度中の全線開通を目指す復興道路・復興支援道路のうち、宮古盛岡横断道路の田の沢IC～手代森IC間(3.4km)が19年12月に、宮古市下川井地区の古田トンネル(2km)が2020年3月に、相馬福島道路の相馬IC～相馬山上IC間(6km)が2019年12月に、三陸沿岸道路の久慈北IC～侍浜IC間(7.4km)が2020年に、気仙沼中央IC～気仙沼港IC間(1.7km)が2020年2月に開通した。

●東北自動車道津軽サービスエリアリニューアル

東北自動車道の津軽サービスエリアが2019年4月にリニューアルオープンした。東日本で初となる地域連携スペースを開設し、青森県の観光・文化などの魅力を発信する。青森の伝統技法を取り入れた地域情報発信コーナーでは、地域の工芸品などの展示や観光映像などの上映を行う。また、地域の伝統芸能などのイベント開催に活用する大屋根広場、商業施設や一般道からのウォークインゲート、ベビーケアルームなどの新設やリニューアルを行った。

●青森～台北線の定期便就航と青森空港ターミナルビルのリニューアル

エバー航空による青森～台北線が2019年7月に就航。当初は週2往復だったが11月には週5往復に増便した。

また、青森空港は旅客ターミナルビルの増築工事が終了し、2019年7月にリニューアルオープンした。延べ床面積は11,000㎡から14,500㎡に拡大し、国内線・国際線それぞれの到着専用エスカレーターの新設、国内線の手荷物受け取りベルトコンベアの新設、祈祷室の新設、飲食店のリニューアルなどを行った。国際線の入国審査場ブースや税関審査場ブースも増設され、短時間での手続きを可能としている。

●「TOHOKU MaaS 仙台trial」実証実験 (STEP1) 実施

JR東日本仙台支社と宮城県、仙台市は「仙台圏における観光型MaaS」の第1弾実証実験を2020年2月1日から29日まで実施。デジタルチケット「仙台まるごとパス」を購入した人はフリーエリアのJR、地下鉄、バスでQRコードをかざすなどで利用できる他、観光マップ、デジタルクーポン、経路検索、レンタカー予約、食べ飲み歩きデジタルチケットなどをスマートフォン一つで利用できる。20年9月には実施エリアを宮城県内に拡大するとともに、交通系デジタルチケットの拡充や新たなサービスを加えた第2弾の実証実験を行う予定にしている。

●常磐線(富岡駅～浪江駅間)の運転再開

東日本大震災の影響で運転を見合わせていたJR常磐線の富岡駅～浪江駅間(20.8km)が2020年3月14日に運転を再開した。帰還困難区域の一部における避難指示が解除されることに伴うもので、これにより常磐線は全線で運転を再開した。

●七里長浜港から津軽港へ名称変更

青森県は、2019年12月に鱒ヶ沢町にある七里長浜港の名称を津軽港に変更した。全国的に知名度の高い津軽という名称を活用し、「津軽への観光誘致・津軽の農林水産物の物流拠点」として、さらなる経済産業振興と地域発展のための利用促進を図ることを目的としている。

●観光地域づくり法人(DMO)の登録

2019年度は、(一財)VISITはちのへ、(株)インアウトバウンド仙台・松島、(一社)しもきたTABIあしすと、(公社)山形県観光物産協会の4件が地域連携DMOとして登録され、(一社)宮古観光文化交流協会、(株)かまいしDMC、(一社)十和田奥入瀬観光機構、(一社)郡山市観光協会、(一社)にほんまつDMO、(一社)DEGAM鶴岡ツーリズムビューローの6件が地域DMOとして登録された。

近年、東北では県を超えたDMO同士の連携強化が進んでおり、2019年5月に「北東北DMO連携会議」を立ち上げた他、東北5県のDMOが連携して東南アジアの富裕層向けの商品開発等を行った。

(福永香織)